

熊本の“いま”を読む地域経済情報誌

昭和61年5月9日第3種郵便物認可 (毎月30日発行)

くまもと経済

表紙の人
Cover Story

中山 峰男 崇城大学学長
「SILC」新D号館で実学主義に磨き
英語学習施設

3 2018
月号

VOL.441

特集 まち・観光・産業
復興から発展へ
くまもとの未来



「桜町」、4月中にも全160テナント内定へ 熊本市中心市街地再開発

インバウンド、震災前上回る勢い 県内観光

香梅が新工場、金剛、城野印刷所は近く完成 被災施設の完全復旧と新分野へ挑戦する県内企業

梅本 茂 くまもとDMC社長

宮崎 浩三 クマモトマリーシイソク社長

リーダーズ
Leaders
2018 KUMAMOTO

Leaders 熊本2018

熊本のリーダー群像146人

英語学習施設

「新D号館」で実学主義に磨き

「ベンチャー」「英語プレゼン」の全国大会はW最優秀賞



「SILC」

昨年、前身の熊本工業大学開学から50周年を迎えた崇城大学(熊本市西区池田4丁目)。現在、熊本地震で被害を受けた英語学習施設「SILC」と「D号館」を建て替えており、開学以来、同大が教育の根幹に据えてきた実学主義にさらに磨きをかける方針だ。昨年は起業家を目指す学生が競う「第13回キャンパスベンチャーグランプリ」と英語表現力の「第6回全国英語プレゼンテーションコンテスト」で最優秀賞を受賞。「全国区」での2冠に中山峰男学長は「これまで注力してきた、学生の自主性を引き出す教育の成果」と評価する。中山学長に目指す方向性などを聞いた。(聞き手は本誌会長・松岡泰輔)

50周年、実学主義で技術者育成 「SILC」「D号館」を建て替え

地震被害額は50億円超に

1967(昭和42)年に前身の熊本工業大学が開学し、昨年50周年を迎えられました。まず率直な感想をお聞かせください。

中山 やはり半世紀という時間の重みを感じます。先代学長の中山義崇が大学を設立した当時は、日本がまだ西洋の背中を追いかけている時代だったと思います。日本を復興させるために科学技術者の育成が急務と考

えた先代が、一生懸命頑張っていたのを思い出します。やはり先代が考えた通り理工系の人材、育成が日本の発展を支えたのは確かで、本学もその原動力になるような人材を輩出できたのではないかと思います。これまで教育の根幹には実学主義を据えてきました。これは創立以来、本学では、学生時代に何を学んだのか、ではなく何ができるようにしたかを教育の基本的な考え方としています。その実践のために施設はもちろん、研究設備や装置などに

他の大学と比べても多額の投資をしてきました。こうした取り組みが世の中のニーズにマッチした技術者の育成につながってきたと思います。30年前、航空力学の講義で学生を飛行機に乗せて学ばせる取り組みが、熊日新聞で「空飛ぶ教室」の見出しで紹介されたことがありました。まさにに体感する、アクティブ・ラーニングは学生の理解も速いんで



西区池田4丁目の崇城大学・池田キャンパス。益城町の空港キャンパス合わせ全5学部10学科を擁し在学生数3586人、大学院生106人が在籍する(2017年5月現在)

C 表紙の人 Cover Story

中山 峰男

崇城大学 学長

なかやま みねお/熊本市出身、1947(昭和22)年9月22日生まれ、70歳。濱々覺高校-熊本大学工学部生産機械科卒、71年積水化学工業(株)入社。80年3月に(株)君が淵学園に入り、89年法人課長、93年熊本工業大学附属情報技術専門学校(現崇城大学専門学校)校長、97年法人局長、2003年4月同学園理事に就任、同年12月理事長、崇城大学学長、(学)文徳学園理事長に就任



4月に運用予定の英語学習施設「SILCI」(4階建て)。同大英語教育の拠点となる

ベースとしたことは良かったと思っています。

ーキャンパス内ではあちこちで熊本地震からの復旧工事が進んでいます。「池田」「空港」両キャンパスの被害額はどれくらいでしたか。

中山 工事途中で最終的な金額ではありませんが、被害総額は設備関係を含めて52〜3億円を見込んでいます。このうち機器・備品は3〜4億円ですので、大半が施設の被害です。

ー工事は何割程度まで進んでいますか。

中山 建て替えを進めているSILCI(Sojo International

Learning Center、英語学習施設やD号館が金額的にも規模の大きな工事でも必要としますが、7割程度まで進んでいるのではないのでしょうか。

ーSILCIは建て替えますか。

中山 建て替えます。以前図書館だった建物で新図書館の完成後は学生会館として活用していました。英語教育強化のため改装し、SILCIとして運用していましたが、地震で柱に大きな亀裂が入ってしまった、建て替えを余儀なくされてしまいました。新しいSILCIは従来の3階建てから4階建てとなり、英語教育専門の施設として4月から運用を始める予定です。以前のSILCIもユニークな施設で

新D号館で「能動的学修」実践を生き残りへ「アクティブティ」強化

ーD号館跡地はどんな施設になりますか。

中山 以前は実験・実習のための建物でしたが、震災を機に学生のアクティブティ(様々な活動)を中心に置く施設として大幅に中身を見直し、建て替えることにしました。建物は半円形の開放的なガラス窓の外観が



建設中の新D号館。隣接する屋根付きの中庭と連動した活動やイベントなどの開催が可能だという

良かったのですが、今回は施設の中身について英語ネイティブ講師の意見も取り入れるなど、より魅力的な施設になると思っています。



新D号館完成予想図。ガラスを多用し、明るく開放的な造りとなる予定だ

ー活用の幅も広いそうですね。

中山 まず新D号館はメインの池田キャンパスの中心に位置し、フードコートもありますので常に学生が集まる賑やかな場所になると思います。建物はステージがある中庭と隣接していて、例えばこと連動した実習やイベントなどが可能です。また、2階はアクティブ・ラーニングの場となりますが、ここも多くの学生が集まるスペースになりますし、3階は講演だけでなく、ステージを広く設計したので学園祭のバンド演奏も可能です。ガラス張りの窓で開放的

自らの力で殻を破る支援に注力

れています。人気のある学部学科を持っている大学は別として、これができる大学が今後生き残っていくのは難しいと思います。

「心に火を付ける教育を」

ー熊本地震からの復旧・復興は生き残るためのチャンスでもあるわけですね。

中山 そういうことです。大学の先生方には日頃から学生のやる気を引き出し、心に火を付けるような教育を」と申し上げています。そうした教育のために何をやるかが重要で施設には工夫が求められますし、学生のアクティブティを促すことが心火を付ける教育につながると思っています。現在、本学は教育改革の最中にありますが、ポートフォリオ(学修記録)の活用はもちろん、学生一人ひとりの対話に重点を置いていきます。学生が何を望んでいるのか、また、学生が何をしたいのかを導き出すことが重要で、将来の夢と志をしっかりと達成できるようにお手伝いをしていきたいと考えています。

ー施設だけでなく、先生自身の変革も必要なのではありませんか。

中山 そこは難しい所ですが、全体の雰囲気を変えていくしかありません。数年前に若い職員が中心となり、仕事をしていく上でのクレド(基本指針)を作成しました。学生の成長をサポートし、温かく、強い大学をつくるという趣旨です。これを教授陣にも認識してもらい、意識改革を進めているところです。

しかし、やはり大切なのは学生自身をどう変えていくかです。啐啄(そたく)という言葉がありますが、ひな鳥が孵(ふ)化する際、内側から卵を破ろうとする時に親鳥が外から殻をつつく様子を意

「新学部・学科開設は当面考えず」

既存学部・学科を充実

ーなるほど。それでは現在の大学の現状をお聞かせください。現在の定員は。

中山 全5学部10学科で入学定員は740人、収容定員が3200人です。2017年5月現在で入学者数が825人、在学生数が3586人となっています。大学院生が106人です。

ーお金がかかりますね。

中山 文科省には3分の2の補助を申請していますが、結果的に半分程度は自己資金になるのではないかとみています。52〜3億円のうちの半分ですから結構な金額です。ただ、先生が教室で一方通行的な講義をする講義スタイルの時代はもう終わりましたから、新しい時代に対応する投資だと考えています。これからの大学は、学生が求めるアクティブティをうまく引き出し、応えていくことが求めら



昨年3月の「第13回キャンパスベンチャーグランプリ」で文部科学大臣賞(最優秀賞)を受賞した古賀さん(左)と後藤さん。東京・麗山会館



「第6回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」も文部科学大臣賞に。授賞式に臨む後藤さん、ヒエンさん、古賀さん(左から)。応募総数641人の頂点に立った。昨年12月、東京・よみうりホール

「受賞した学生の学部学科は、

育にも大変意欲的です。昨年は第6回英語プレゼンテーションコンテストで日本一になりました。その中でも、このところ崇城大学の特色が強く出てきた印象を受けています。この理由は何かとお考えですか。

中山 やはり学生が自ら動いて学ぶという学内の機運が、以前に比べ高まってきたからだと思います。学生は自ら動き何かやりたいことを見つけると、その対象に気持ちを傾注していく

ものです。私自身、若い人は無限の可能性を持っていると思っていますので、そのような気持ちにさせなってくれるれば、ひっそりするようなすばらしい成果を出してくれそうです。その証明が昨年3月の「第13回キャンパスベンチャーグランプリ」と12月にあった「第6回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」の最優秀賞となる2つの文部科学大臣賞の受賞です。

―その2つの大会はどのよ

うなコンテストですか。

中山 ベンチャーグランプリは日刊工業新聞社の主催で内閣府や文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会、日本商工会議所などが後援する全国大会で、学生がトライするベンチャーコンテストでは最も権威ある大会です。全国学生英語プレゼンテーションコンテストは、主催が神田外語大学などを擁する神田外語グループと読売新聞社で、文部科学省や外務省、米国大使館などが後援する、これも権威ある催しです。このコンテストは、次点である優秀賞が東京外国語大学と英語教育で有名な秋田県国際教養大学で、2つの強豪を抑えての最優秀賞ですから大したものです。やはり本学が徹底して取り組んできた英語教育の成果だと考えています。

中山 1年前のベンチャーグランプリは本学の「起業部」に所属し生物生命学部応用生命科学科4年の古賀さんと生物生命学部応用微生物工学科3年の後藤みどりさんです。

―全国学生英語プレゼンテーションは。

中山 大学院に進学した古賀さんと4年生になった後藤さんにベトナム人留学生で工学部ナノサイエンス学科3年のチャンテイジウヒエンさんを加えた女子学生3人です。

―古賀さんと後藤さんは2つも最優秀賞ですか。すごいじゃないですか。

中山 そうなんです。ですから学内の賞罰委員会でも2人に学生栄誉賞を贈ることを決めました。1年間に2度も文部科学大臣賞を受賞した学生はおそらく日本で初めてではないでしょうか。

―それは授業料免除ですか。

中山 残念ながら免除ではありません(笑)。ただ、副賞には本学大学院進学時の授業料を無償としました。2人には賞状と、本学名誉学長で文化勲章受章者の中村晋也先生作の楯を製作し

者の割合は。

中山 およそ50%で、九州内は98%です。

―留学生は。

中山 大学院を含め約80人で、中国が多くベトナム、インドネシア、最近はネパールの留学生も増えてきています。

―芸術学部は開設して18年、薬学部が13年ということですが、学部別に変化はありますか。

中山 やはり工学部の宇宙航空システム工学科に航空整備士を目指す航空整備学専攻、エアラインパイロットを目指す航空操縦学専攻を開設したことが大きいですね。



空港キャンパスの工学部宇宙航空システム工学科「航空操縦学専攻」の学生。エアラインパイロットを養成する

―それぞれの入学定員は。

中山 「航空整備学専攻」が30人、「航空操縦学専攻」が20人です。

―阿蘇くまもと空港に直結している空港キャンパスが講義、実習のホームグラウンドになりますか。

中山 そうですね。航空整備学専攻は1〜2年生まで池田キャンパスで学び、3〜4年生は益城町の空港キャンパスで学びます。航空操縦学専攻は、1年生は池田キャンパスで、2年生の後期からは空港キャンパスです。空港キャンパスでは寮生活をしながら主に実習に臨んでいます。

―18年前に芸術学部、13年前



「航空整備学専攻」で実物の飛行機を教材に学ぶ航空整備士を目指す学生たち(空港キャンパス)

には薬学部、また宇宙航空システム工学科などニーズにマッチした学部学科を開設してこられました。今後新たな学部や学科の新設、再編をお考えですか。

中山 現時点では考えていません。というのも既存の学部・学科の中身を変えていくことを優先しているからです。また、新たな学部を開設するには約30億円、学部開設となると40億円の資金が必要です。これは文科省の方針でもある設置経費としての最低限のラインでもありません。また地震からの復旧に費用がかさむこともあり、資金的にも厳しいのが実情です。現在は本学に限らず、新たな学部・学科の開設は、なかなか難しい状況ではないでしょうか。

―昨年は福岡大学の山口政俊学長、先日は九州産業大学の「一瀬秋久理事長にインタビュー」しましたが、学部・学科の再編は常々実施されているよう



薬剤師国家試験に向け実習を重ねる薬学部の学生。同学部は05年の開設から13年目となる

「自ら動き学ぶ機運の証明」

「最優秀賞の2人に学生栄誉賞」「英語」は東京外大、国際教養大抑え

―ところで最近では起業家育成に熱心に取り組まれていますし、先程話されたように英語教

中山 多額の資金を必要としない、いわゆる改組はどの大学も取り組んでいます。新たな教授陣を招くのではなく、現在在籍している先生が教べんを執り、中身を変えていくものです。本学も情報学部は工学部の電気工学科と電子工学科を合わせて、情報学部情報学科とするなど改組への取り組みは以前から進めています。



16年に開設した「ものづくり創造センター」ではドローンコンテスト(写真)などモノづくりの楽しさを体感できる

贈呈することになっています。主催者から贈られた全国学生英語プレゼンテーションの賞金は

ベンチャー育成で地方創生を リスクヘッジ型「起業で独自性」

米スタンフォード大を参考に

―改めておめでとうございます。あとに続く学生が出てくればいいですね。

中山 ありがとうございます。まず、やはりこのようならばいい成長をしてくれる学生を育てていかないと大学の発展はないと考えています。特に、ベンチャー企業設立を目指すような学生を育てていく上で、私が参考になっているのが米国のシリコンバレーをつくったといわれるスタンフォード大学の取り組みです。米国の80年代は、少子化で大学が潰れた時代ですが、同大はそうならないために所有する広大な敷地に企業の研究開発機関の誘致を進めました。田舎にありますが誘致を促進するため大学に一流の研究者を招き、一緒に研究ができるような環境を整えたわけです。

100万円、副賞がニューヨーク往復の航空券で3人も随分喜んでいました。

その後、インテルやゼ ロックスなどの企業が進 出し共同研究を進める一 方、ベンチャー育成にも注 力し、ヤフーやグーグルと いった世界規模の企業が大 学で生まれ、現在のシリコ ンバレーが形成されていき ました。われわれも理工系 としてこのような大学をせ ひ目指したい。今後、熊本の地 方創生を考えると、地域との連 携も重要ですが、人材の育成に 重点を置き、起業するような学 生を育て、地域に貢献できるよ うにしたいと考えています。10 年前前から取り組みを始め、よ うやく国内のビジネスプランコ ンテストのトップの賞を受賞す るまでになりました。

―これまでは一流のスポーツ選手、あるいは芸能人の育成に力を入れる大学が多かったと思いますが、比較的ベンチャーへの関心は低かったです

少子化影響、「インパクトは大」 「東京から離れるほど厳しく」

奨学金制度を拡充

―ところで特待生制度にも力を入れておられますが、具体的にはどのような制度ですか。

中山 40周年の際は図書館を建設しましたが、50周年記念の事業では人に投資をしようとして、従来の特待生制度をより拡充した形で新制度を設けました。名

称は「未来人育成特待生制度」、略して通称「ミライク」とし制度を構築しました。周年事業として発足しましたが、今後も続けていくつもりです。

―対象は何人ぐらいですか。中山 300人以上です。一定の基準がありますが、授業料が無料となるタイプと国立大学より安い50万円となる2つのタイプがあり、現在、入学者の7人に1人がこの制度で入学しています。

―最近の就職状況は。中山 昨年の実績は本学始まって以来、初めて100%を達成し非常に嬉しく思っています。

―少子化の影響についてですが、18歳人口の減少傾向が強まる「2018年問題」もその最中に入りました。受験生が減っていく中で改めてこの問題をどう受け止めていますか。

中山 やはりインパクトは大です。特に地方の



学生のアクティビティも多彩に。写真は昨年の全日本学生フォーミュラ大会に出場したプロジェクトのメンバー



昨年、日本EVクラブ九州主催の電気自動車レースに出場した「情報」[デザイン]両学科の学生

ね。中山 国内では福島県立の会津大学がベンチャー育成では一歩先を歩んでいます。情報系の大学ですが、多くの外国人の教員を招へいし、すでに成功している企業もありますし先駆者的存在です。最近では日本中の大学が力を入れ始めていますが、本学は他大学とは一味違う、オリジナリティーを打ち出していきたいと考えています。その一つが、学生がリスクを負わず起業できる形を作ることです。こう

し、シリコンバレーのようにはなれないと思っています。―例えばドローンはベンチャービジネスの材料として有望ではありませんか。中山 ドローン以外にもいっぱいあります。本学のビジネスプランコンテストでは70組ほどの発表がありますが、びっくりするくらい多くのプランが発表されます。聞いていただけでも楽しいですし、感心しますね。やはり若い人たちの発想には驚かされるばかりです。

大学は東京から離れば離れるほど厳しく思います。特に収容定員2千人以下の小規模大学は学生確保が難しい時代に入っただといえます。文科省の中央教育審議会(中教審)が指摘してきた2018年問題では、今後10年間で約14万人が減少するといわれています。現在の大学進学率50%で換算すると、10年後の大学への進学者は半分の7万人減となり、全国にある約7000の大学数で割ると1校当たり100人の減少です。こう見ると小規模大学にとっては非常に

出水中―濟々費―熊大工学部卒 団塊世代、中学は1学年22クラス

昨年9月で古希に

―次にご自身のプロフィールについて。1947(昭和22)年9月のお生まれ、古希ですね。おめでとうございます。お祝いはされましたか。

中山 ありがとうございます。実はあちこちから話をいただいたのですが、すべてお断りしました。昨年で50周年で大きな行事をしましたので、自分の

厳しい経営を強いられることは十分予想されます。

私は日本私立大学協会の副会長兼九州支部長を務めており、使命として九州地区の私立大学を閉校させない取り組みをやっているかなければなりません。文科省は定員割れが続く大学への補助金をカットする方針を打ち出すなど、私立大学の経営がただでさえ厳しいうちに非常に厳しい姿勢を見せています。今後は各大学としっかり連携し協会全体で対応していく必要があると考えています。

―名門佐々家のご出身ですが、濟々費創立者の佐々友房さんはどんな人だったのですか。

中山 祖父の兄、大伯父にあたり明治期に亡くなりましたので、もちろん会ったこともありませんし、家族間でも友房の話は聞く機会はありません。父も自ら進んで話すことはありません



昨年8月、沖縄であった長男・泰宗さんと裕佳子さん(前列)の結婚式で家族と。後列左から夫人の母・サワさん、二女・番代子さん、郷子夫人、本人、長女・美里さん



ネパール・カトマンズでのスナップ。ダルバールスクエアにて。92年暮れ

「海外はカトマンズが印象に」
お子さんは息子さんと娘さん2人の3人ですね。熊本にいらつしやるのですか。
中山 ええ。長男は本学の応用微生物工学科の准教授で、後継ぎとして育てているところです。長女は本学の総務課に、次女は関連企業の秀拓に事務職と

感づかれてしまつてヘルメットを被つた連中が消火器で反撃してきました。そうこうしていると屋上からこぶし大の石を投げってくるんです。
―それは危ない。
中山 頭に当たれば即死するくらいの大きさです。次々と投げってくるものですから1人が肩に直撃を受けてしまいました。それを見ていた職員が警察に通報し、機動隊が来て全学連の学

生は蜘蛛の子を散らすように逃げて行きました。すぐにパレードも撤去し、大学は正常に戻り、無事に4年間で卒業することができました。
―望み通り4年で卒業。特攻隊のおかげですね(笑)。卒業後は積水化学工業に入社、29歳で先代学長の長女である郷子夫人と結婚されますが、いきさつは。
中山 メキシコにある合併企業

業の工場長として転職が決まったのですが、会社から5年は



熊大を卒業後、71年から9年間、プラスチック加工メーカーの積水化学工業に勤務。写真は入社当時、仲間と一緒に



幼少期、佐々家の家族と。前列左から本人、祖母・トキ子さん、三姉・みか子さん、後列左から長姉・澤子さん、父・亀雄さん、母・勝子さん、次姉・沢子さん

安全保障室長を務めた元警察官原の佐々淳行さん、姉で参院議員を務めた紀平梯子さん(故人)がいます。
―ご自身は出水小から白川小に転校し出水中、濟々躰高、熊本大学工学部に進まれました。熊本の「本流」ですね。
中山 うーん、本流といえるかどうか(笑)。団塊の世代で、当時はとにかく子どもの数が多く、当時白川中は1学年14クラスありました。熊本市内では出

したが、周囲から聞いたところでは、性格は物静かで、ひとたび口を開くと快活に話すといった一面も持っていたようです。薩軍に身を置いた西南戦争では一命を取り留め、その後学校を創設し、政治家になりました。それから中心で生活が中心でしたので、一族は現在も東京で暮らしています。孫に初代内閣

「暁の特攻隊」で大学封鎖を解除 学生運動ピークも4年で卒業

結婚後メキシコ勤務のはずが：

―熊大時代はどんな学生でしたか、勉強一筋で？
中山 勉強はほとんどしませんでしたね。パチンコ、麻雀：それなりにやっつたと思います。というのも学生運動がピークの頃で、熊大も2年時に工学部の本館が閉鎖されてしまいました。講義がでない状態が続き、当初は半分喜んでいましたが、さすがに3カ月が過ぎると卒業が気になり始めました。先生に聞くと、長引けば4年で卒業するのは難しいとの返事です。そこで仲間と相談し、ある行動に出しました。

―どんな行動ですか。
中山 「暁の特攻隊」です(笑)。講義を再開するにはまず、封鎖された本館を解放し



96年、当時日本国際救援行動委員会(JIRAC)の理事長を務めていた佐々淳行氏が同大で講演。学生にカンボジアでのボランティアを呼び掛けた。中央が佐々氏、左に中山前学長、サワ夫人。右が本人

室に60人以上がひしめき合うように座っていましたから、片足はいつも教室の外に放り出されていた(笑)。
なければなりません。玄関の前に机や椅子で積まれたパレケードを解除しようと決めた朝のまだ薄暗い中、白川の河川敷に数十人が結集しました。そして玄関前の机や椅子を中にある全学連の連中にばれないようにそつと運び出していました。しかし、

して勤務しています。孫がまだおりませんので、ぜひ顔を見たいと思っています。
―趣味は。
中山 たまにゴルフをするくらいです。元々生き物が好きで以前は山野草の採集をしたり、海で貝殻を拾ったりしていましたが、時間が持てればまた楽しみたいですね。

―確かイタリヤに行ったことがなくて熊本日伊協会の会長をされていましたが(笑)、海外もあちこち行かれたのでしょうか。
中山 イタリヤにもまだ行ってなくて、あつかましくも会長を続けています(笑)。海外では、ネパールのカトマンズが1番印象に残っています。映画の「インディ・ジョーンズ」に出てくるような古い神殿があり、その風景には非常に感心しました。残念ながら先の地震で被害を受けたようですが、もう一度行ってみたいと思っています。ペルーのマチュ・ピチュ、ナスカの地上絵も心に残っている場所の一つです。
―本日はありがとうございます(文・構成/編集部・川野敬之)

崇城大学 学長

中山 峰男

なかやま みねお

Mineo Nakayama

1947年9月22日生まれ70歳。済々黉高校一熊本大学工学部卒。趣味はゴルフ。71年積水化学工業入社。80年4月に(株)君が淵学園に入り、89年法人課長、93年熊本工業大学附属情報技術専門学校校長(現崇城大学専門学校)、97年法人局長、03年(株)君が淵学園理事に就任。03年12月1日(株)君が淵学園理事長、崇城大学学長、(学)文徳学園理事長就任



学生のやる気に火をつける教育を目指す

ひな鳥が殻を内側からつつき、それに応じて親鳥が外から殻をつつく様子を表した、「啐啄同時」(そったくどうじ)の例えを引き、「どう学ぶか、どう未来を描くかといった、学生のやる気をタイミング良くうまく引き出すことが大学の役割」と話す中山峰男崇城大学学長。

グローバル社会で活躍できる人材育成を目指し、世界で通用する英語力、コミュニケーション力を身に付けることを目的に開設した英語学習施設SILC(シルク)は、そうした学生の自発的な学びを促す施設の一つ。昨年神田外語グループと読売新聞社との共催で開催された学生英語プレゼンテーションコンテストでは、国内の有名私立大学、外国語大学からの出場者を抑え、古賀さん、後藤さん、ヒエンさんら崇城大学チームが見事最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞するなど、早くもその成果が現れている。また大学開学50周年記念事業としてスタートした特待生制度「ミライク」は、毎年入学者の約7人に一人が利用している。

同大学では2017年就職率100%を達成した。大手企業からの求人数の増加からも、同大生への評価の高さが伺える。中山学長は「学生たちが、人生の目標に向かって力強く踏み出せるよう、やる気に火をつける教育をこれからも力をいれていく」と最後に語った。

〒860-0082 熊本市西区池田4丁目22-1 TEL096(326)3111(代表)

DATA

設立/昭和24年4月電気・電波学校創立、昭和42年熊本工業大学設立、平成12年熊本工業大学から「崇城大学」に名称変更 学部構成/工学部4学科、芸術学部2学科、情報学部1学科、生物生命学部2学科、薬学部1学科、大学院工学研究科博士後期課程6専攻、修士課程7専攻 大学院芸術研究科博士後期課程1専攻、修士課程2専攻 大学院薬学研究科博士課程1専攻 学生数/約3690人 関連機関/DDS(Drug Delivery System)研究所、エネルギーエレクトロニクス研究所、応用微生物研究所、衝撃先端技術研究センター、空港キャンパス、崇城大学専門学校、崇城大学ギャラリー